

平成 25 年度エゾシカ試験捕獲 実施方針（案）

○目的

- ・釧路湿原国立公園におけるエゾシカ個体数調整の可能性を検討する。
- ・捕獲個体の有効活用に関する体制構築を図る。
- ・捕獲適地検討調査により、最も適当な場所とされた達古武地域において、先行して試験捕獲を実施する。

○検討位置図

達古武地区航空写真（平成12年7月撮影）



○達古武地域の特徴

- ・カラマツ人工林を環境省が取得し、自然再生事業を実施している森林。
- ・植生調査、エゾシカ食害調査、歩行性昆虫・ネズミ類調査等が実施されており、エゾシカによる影響が把握されている上、個体数調整の効果の評価が可能。
- ・平成 24～26 年度に一部で間伐が計画されている。
- ・間伐材の樹皮や枝条をエゾシカが採食する様子を確認。間伐材等に誘引されたエゾシカが周辺林分に集まっている可能性がある。
- ・国指定鳥獣保護区であり、一般狩猟との住み分けができる。
- ・作業道が整備されており、アクセスがよく、捕獲個体を生体搬出できる可能性がある。

○囲いわな設置可能地の状況



○検討事項

① 囲いわな

- ・ わな設置位置について
 - 平成 24 年度は囲いわな設置可能地に間伐材が堆積されていたが、平成 25 年度の堆積地は未定。
 - 間伐材堆積地の直近でなければ囲いわな捕獲できないか？
 - 堆積地を囲いわな付近に設定するべきか？
 - 同じ場所で継続して捕獲ができるか？
- ・ わなの構造等について
 - 小型囲いわな（10m×20m 程度）を想定
 - 携帯電話通信によるインターネットカメラ利用
 - ゲートは遠隔操作か、自動捕獲か？
※電源は自動車バッテリー想定

② 有効活用について

- 生体搬出・搬送の可能性
- 有効活用施設との連携構築

③ その他の捕獲手法の検討

- ・ 囲いわなで捕獲できない個体群の有無と他の手法での捕獲可能性
- ・ 複数の手法を組み合わせることによって捕獲効率が上がるか？
 - シャープシューティング等の実施可能性・効率性の検討

参考：知床岩尾別地区小型囲いわな構造図

